

JICA 研修生が銅山川地区民有林直轄地すべり防止事業の視察研修を行いました

— 治山課

山形森林管理署最上支署で民有林直轄地すべり防止事業を実施している銅山川地区地すべりは、山形県最上地方南西部の最上郡大蔵村大字南山地区に位置しています。

地すべり地内には、新庄—大蔵村—肘折温泉を結ぶ幹線道路である国道458号線が通り、下方には銅山川が流れています。また、地すべり地の下流側の銅山川沿いには最上川との合流点にかけて26の集落が点在しているため、地すべりの早期安定化が重要な課題となっています。



このことから、平成4年度より民有林直轄地すべり防止事業として対策が行われていますが、平成8年5月の融雪期に大規模に再滑動し、その後も小

規模ながら地すべり活動が続いていました。

このため、地すべりの発生要因となる地下水を排除するための排水トンネル工等を施工し、地すべりの安定化を図っています。



平成28年5月18日（水）、ホンジュラス共和国から研修生8人が、この銅山川地区民有林直轄地すべり防止事業の視察に訪れました。

ホンジュラス共和国は中央アメリカ中部に位置する国で、平成10年に発生した大型ハリケーン「ミッチ」により、首都テグシガルパでは大規模な地すべりが発生しました。その際に、JICA（独立行政法人国際協力機構）による地すべり防止事業の技術支援が

行われており、その支援の一環として今回の視察が行われました。



はじめに、銅山川地区での地すべりが発生した背景やこれまでの対策と現在行っている工事について説明を行い、その後、現地の見学を行いました。

銅山川地区は、火山堆積物（シルス）に厚く覆われた脆弱な地質と急峻な地形、豪雪地帯気象条件から地すべりが頻発しており、平成4年から現在まで20年以上をかけた大規模な地すべり防止工事を行っています。現在地下100m以上の箇所、地下水排除を目的としたトンネル工事（全長約6km）を行っており、実際にその中に入り見学を行いました。

研修生からは、技術的な質問に加え、

長期間にわたる事業の運営方法や、対策を行った現場の維持管理方法について熱心に質問が出されました。

今回の視察で学んだことが、ホンジュラス共和国を始め中南米諸国の現地で活用されることが期待されます。

